

## 景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成29年10月)

### ～現状、先行き共に、株高や政治の安定傾向が心理面で好影響～

- 景気ウォッチャー調査・10月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2か月連続で上昇したほか、先行き判断も2か月ぶりの上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、2度の台風によって大きな被害が出たものの、株価の上昇や、衆議院選挙の結果を受けた政治の安定などが、心理面でプラスに作用した。また、インバウンドによる消費も、中国の国慶節に伴う訪日の動きを含め、引き続き好調に推移している。
- 2度にわたる台風の影響については、風雨による直接的な被害はもちろん、タイミングが週末と重なっただけに、客足の減少が大きく響く形となった。スーパーやコンビニ、外食店などからも、来客数の減少に関する声が上がっている。
- 先行きについては、株高傾向による年末商戦の盛り上がりへの期待や、政権の継続に対する安心感、インバウンドの好調の持続などにつき、期待の声が多く聞かれる。ただし、インバウンドの消費は昨年末ごろに急増し、間もなく1年が経過することで、前年比での伸びの鈍化を予想する声も少なくない。
- 海外情勢については、北朝鮮をめぐる地政学リスクが高まっていることから、先行きへの警戒が続いている。

#### 「台風・雨」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	良くなっている	百貨店(売場主任)	・食料品の動きは、台風や長雨の影響を受けたものの、前年比で3.0%増と好調。特に、衣料品や化粧品などの雑貨が好調である。精肉や鮮魚などの単価の高い商品の動きも良くなっている。
		百貨店(マネージャー)	・今月は、週末が2度台風に見舞われたが、店舗全体の売上は前年比で9%増、訪日外国人売上を除いても2%増と好調である。直近の株高効果もあってか、特選衣料、宝飾品、時計などの高額品が好調に推移し、客単価を押し上げるとともに、幅広い商品で前年を上回っている。訪日外国人売上も前年から倍増となるなど、好調な動きが幅広い商品に及んでいる。
	やや良くなっている	百貨店(売場マネージャー)	・月初から婦人、紳士の秋物商材が好調に動き、前年比で2けた近い伸びとなった。最終的には、週末の2度の台風襲来でほぼ前年並みに終わったが、国内需要についても、ここ数年はみられなかった力強さを感じている。
		百貨店(販促担当)	・今月は気温の低下もあり、これまで不振であった衣料品についても、底堅く動いている。また、比較的好調に推移している雑貨、食品関連も引き続き順調である。大型の台風の直撃により、今月の売上は前年並みに押し下げられたものの、セールに頼らず、定価品に動きがみられる。
		百貨店(商品担当)	・郊外の店舗は、台風を始めとする天候要因の影響を受けたが、都市部の店舗は依然として免税売上が順調で、売上全体を底上げしている。ただし、化粧品、子供服は好調であるが、免税売上シェアの低い婦人、紳士衣料は、前月から一変して低調となっている。その一方、婦人洋品雑貨は防寒アイテムが動き、食品は大型の物産催事が安定して集客できているなど、順調な動きとなっている。
		百貨店(マネージャー)	・10月の前半は中国の国慶節があり、訪日外国人客が大幅に増加。インバウンド売上が前年比で300%増と約4倍に増えるなど、大きな効果があった。ただし、中旬、下旬は週末の台風の接近が2度あり、入店客数が激減。10月の売上は前年比で減少となった。一方、台風と衆議院選挙の最中に開催した富裕層対象の大型催事が過去最高の売上となるなど、高額品を中心に消費意欲は向上している。
		観光型旅館(経営者)	・少し良くなったと感じるものの、台風の影響によるマイナスの影響がみられる。
旅行代理店(役員)	・週末の台風直撃で、多くのキャンセルが発生した一方、海外旅行は不安要素が多いなかで、単価の高い商品が売れている。		

家計動向関連	変わらない	一般小売店〔精肉〕 (管理担当)	・例年、10月の動きは悪くないが、今年は衆議院選挙の影響を受けた。また、天候も週末に雨が多く、大型の台風による交通機関などへの影響も大きかった。災害の大きさや範囲によっては、今後への影響も考えられる。さらに、気温が早めに低くなり、鍋物の需要が高まると思っていたが、動きが悪い。
		一般小売店〔菓子〕 (経営企画担当)	・10月と7月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は10月が96.2%で、7月が99.1%、関東は10月が92.1%で、7月が91.2%、中部は10月が74.6%で、7月が92.1%、中国は10月が59.4%で、7月が102.8%となり、各地区合計の平均は10月が84.0%で、7月が96.9%と、全国的に不調である。特に、中部、中国地区が悪い。週末の台風による影響や、中国地区は前年のプロ野球の優勝セールによる反動が出ている。
		百貨店(売場主任)	・雨や台風の影響で、お歳暮商戦は立ち遅れているが、外国人観光客の増加や株高に支えられ、化粧品や衣料品、高額品が好調に推移している。
		百貨店(売場主任)	・今月も目標を達成する見込みである。依然としてインバウンドが好調であり、雨の日が多いものの、気温の低下で秋物商材の動きも良い。ただし、全ての商品の売上が好調ではなく、良い商品とそうでない商品の差が顕著である。客は、景気が良いから商品を購入するわけではなく、特殊な要因による売上の好調が続いている。
		スーパー(店長)	・客1人当たりの単価が下がっている。雨が降ったこともあるが、年末を前にした買い控えも考えられる。
		スーパー(経理担当)	・売上は今一つであるが、週末の台風などの天候不順や、野菜の相場安による影響が大きく、全体の消費が落ち込んでいるわけではない。
		コンビニ(経営者)	・雨が降ったほか、台風の影響もあり、来客数は減少した。ただし、その一方でまとめ買いなどが増え、客単価が上昇したため、売上は横ばいとなっている。
		その他専門店〔医薬品〕(経営者)	・9月に続いて雨の日が多く、客の出足が鈍い。また、買上点数が少なくなり、チラシを出した日に、まとめ買いをする客が多い。
		一般レストラン(経理担当)	・衆議院選挙の影響や、北朝鮮情勢に関する不確定要素、異常気象や大型台風による客足の低迷など、複合的な要因で伸び悩んでいる。
		観光型ホテル(経営者)	・今月は台風21号の影響や、団体客のキャンセルが重なり、前年の販売量を下回った。また、直前の個人客の動きも今一つであり、キャンセルで発生した空室を埋められていない。
		旅行代理店(営業担当)	・個人消費がなかなか浮上しないほか、台風の影響もあり、依然として厳しい状況が続いている。
	やや悪くなっている	一般小売店〔珈琲〕 (経営者)	・商品を卸している飲食店からの注文数量が減少している。直営店の来客数も、雨などの天候不順で激減している。
		一般小売店〔時計〕 (経営者)	・月の初めは客足も悪くなく、まずまずの出足であった。少し期待したが、中旬からは雨が多く、2度の週末の台風で商店街のイベントも延期となり、客足もずいぶん減った。雨が降ると、路面店には致命傷となる。
		スーパー(企画担当)	・今年は残暑が厳しくないほか、台風などの天候要因もあり、飲料関連は大きく前年を下回っている。逆に、鍋物関連商品は動きが早くなっているが、マイナス分をカバーするほどではない。野菜価格は高騰しているものの、一定以上は価格を上げられず、苦戦している。
スーパー(企画)		・客単価は堅調なものの、来客数が厳しい状況にある。これまでは衣料品、生活関連品の不振を食料品がカバーしてきたが、9月以降は食料品の動きも鈍くなりつつある。9月からの台風や不漁で、青果や鮮魚関係の価格が上がるとともに、足元の消費環境は厳しくなっている。	
コンビニ(店員)		・雨の日が多く、来客数が少ない。	
家電量販店(人事担当)		・夏が終わって気温が下がり、過ごしやすい季節となったため、買換え需要以外の客の動きが少ない。また、秋の長雨により、来客数も前年に比べて減っている。	
一般レストラン(経営者)		・今月は週末の台風が2週間続いたため、来客数が減少した。近隣の商店街も人通りは少なく、周囲の店にも客は入っていない。	
観光型旅館(団体役員)		・10月に入り、台風が2度にわたって週末に接近したため、予約のキャンセルによる損失が大きい。	
悪くなっている	旅行代理店(店長)	・客が台風や衆議院選挙前後から減っている。いろいろな要因が重なり、旅行は今でなくてもよいと考えている。	
	スーパー(経営者)	・週末に接近した2度の台風や、前年比で2倍の降雨量により、来客数が大きな影響を受けた。また、前年は野菜の相場が急騰した反動で、1品単価も前年比で6割程度に落ち込んでいる。不漁や台風の影響で、鮮魚の入荷も不安定となるなど、散々な売上となっている。	
企業動向関連	変わらない	衣料品専門店(経営者)	・10月前半までは暑く、雨が降ってから急に寒くなったため、衣料品の売れ筋商品が変わり、売上が前年比で3割減少している。
		食料品製造業(従業員)	・台風などの影響で週末のたびに天候が崩れ、人の出足も鈍っているが、気温が下がってきていることもあり、商品の出荷は少し回復している。
	建設業(経営者)	・価格競争は相変わらず厳しい状況が続いている。今回の台風被害の応急対応で、監理技術者や技能労務者の不足がより深刻になっている。	
	その他サービス業〔店舗開発〕(従業員)	・今月は雨の日が非常に多く、特に週末の行楽には悪影響となったため、駅ナカ店舗は軒並み来客数が減り、売上ダウンとなった。一方、コンビニなどの売店では、傘やレインコートといった雨具の売上が、例年の約120%増となっている。	
なっている	通信業(管理担当)	・長雨による野菜価格の高騰で、影響を受けている。	

「株高」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	な る く	百貨店(売場主任)	・株価の上昇に連動して、高額品の動きが良くなってきたことが、肌で感じられるようになっている。
	やや 良 く なる	百貨店(営業担当)	・昨今の株価の上昇もあり、高級ブランド品は優良顧客の更なる購入で伸びている。
		百貨店(売場マネージャー)	・衆議院選挙も終わったが、株価は安定しており、ボーナス支給も前年を上回ると思われるため、これからの年末年始の商戦にかなり期待している。
		百貨店(販促担当)	・衆議院選挙での与党の大勝により、株価がますます上昇している。景気に対する世間の期待値も高まり、年末商戦には期待できる。前月の後半から今月にかけては、浮ついた感じではなく、気温の低下に伴って消費が上向いている。特に、衣料品の購買周期が良い傾向となるなど、年間最大のクリスマス商戦に向けて、良い流れになってきている。
		百貨店(営業企画)	・衆議院選挙が順当な結果となり、株価も力強く上昇している。全国的に明るい材料が増えており、希望的観測として、地方や郊外にも消費の力強さが広がる。
		百貨店(外商担当)	・株価の上昇が続いていることで、富裕層による高額商品の消費が上向く。また、インバウンド売上も好調に推移していく。
		百貨店(マネージャー)	・衆議院選挙での与党の大勝により、現在の経済政策が維持され、株価も上昇している。この結果、百貨店の中心顧客である富裕層の消費意欲は、ますます旺盛になると予測している。企業業績の向上による賃金の上昇が、中間層の消費にプラスとなるほか、冬らしい気候となる予報から、衣料品や家庭用品などの冬物商品が堅調に動くと期待している。
		スーパー(経営者)	・台風の影響により、農産品の単価が前年の水準に近づいている。前年は野菜相場が高過ぎて、鍋物需要が伸び悩んだが、今年は冷え込みが早いこともあって順調に推移し、肉や魚、つゆ、スープ需要なども高まる。また、株高の年は少し高価な食材が伸びるため、北朝鮮などの地政学リスクが高まらず、良くなることを期待したい。
		変 わ ら な い	一般小売店〔野菜〕(店長)
	百貨店(売場主任)		・インバウンドの需要はしばらく好調が続くそうであるが、現状は株価が上昇しているものの、国内客の消費に大きな変化はない。結果として、百貨店は都心部の好調が続く一方、地方の苦戦も続くことになる。全体的には従来と大きな変化はなく、北朝鮮問題が一番の不安定要素である。
	百貨店(マネージャー)		・個人消費の大幅な改善は見込めない。企業利益や株価は好調でも、個人所得が伸びないほか、着実に進む高齢化による将来不安などで、消費意欲が高まらない状況が続くため、当分は小康状態となる。今後、消費税増税の問題も現実となるため、様子見の状態が続く。
	百貨店(商品担当)		・衆議院選挙での与党の大勝で、株価が堅調な水準を維持しており、消費の大崩れは当面ないと思われる。ただし、好調が一巡する外国人観光客の免税売上は、今後の動きを予測しにくく、不安材料として常に上がっている。
	百貨店(宣伝担当)		・北朝鮮問題で懸念された、インバウンド売上の減少も現時点ではみられず、引き続き伸びている。株高が続く、天候要因などで大きな悪影響を受けなければ、来月以降も安定した売上が見込める。
	スーパー(店長)		・政権の安定による株高で富裕層が潤っているほか、関西ではインバウンド需要も高く、百貨店は好調である。一方、スーパーは同業者のほか、コンビニやドラッグストア、通販といった異業種との競争が激しい。市場が縮小傾向にあるなか、今後も更に厳しい競争が続くと予想される。
	その他専門店〔医薬品〕(経営者)		・少しずつ株価は上がっているが、所得が増えている感覚はない。同一の品質、機能であれば、客は単価の安い商品へと動く。
	その他専門店〔宝石〕(経営者)		・景気の動向は、為替と株価の変動に左右される。海外からの何らかの影響がない限り、今のままで推移し、良い状態で年末を迎えることができる。
	旅行代理店(支店長)		・衆議院選挙が終わり、未来へ向けた気持ちの切替えが進み、娯楽に対しても消費マインドが戻ることを期待される。ただし、消費税増税への不安もあるなかで、景気の回復や株価の上昇といった話は、消費者の実感とは程遠いため、現状のまま大きくは変わらない。
	通信会社(経営者)		・中小企業には、特に株価上昇などの影響はみられない。
	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕(企画担当)		・株価は上昇局面にあるが、一般的なレジャー消費に対しては、特に期待できる要素はない。
	企 業 関 連		変 わ ら な い
金融業〔投資運用業〕(代表)		・株価の連騰などで、景気浮揚の兆しも見え隠れするが、相変わらず北朝鮮の地政学的リスクは残っている。	
経営コンサルタント		・価格が全てというクライアントが多く、競争は更に厳しくなるため、見通しは明るくない。株価は上がっているが、景気の実態とは異なる動きとなっている。	
雇 用 関 連	や や 良 く な る	新聞社〔求人広告〕(管理担当)	・特定の業種とはいえ、一部の労働集約型業種では求人数が増えており、明らかに人手不足となっている。これは、景気がやや上向いている可能性を示している。今後、ほかの業種にも広がれば、株価の連騰や、米国を含めた世界経済が好調であることから、北朝鮮の暴発でもない限り、景気の良くなる日は近い。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 15			16			17																		
		月 10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
現 状 判 断	近畿	53.1	49.8	49.9	48.3	45.4	40.3	41.1	42.1	40.0	46.0	45.6	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	51.7	52.1	50.6	50.8	53.5
	(全国)	50.7	49.3	49.0	47.6	44.1	42.0	40.6	41.7	41.2	43.8	46.0	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	50.0	49.7	49.7	51.3	52.2
先 行 き 判 断	近畿	51.1	48.9	48.8	47.2	47.0	46.1	46.2	46.7	41.1	47.0	48.4	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	51.9	49.2	50.0	49.3	55.7
	(全国)	50.7	50.5	50.0	49.1	46.4	45.7	43.7	45.4	40.5	46.9	48.6	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	50.5	50.3	51.1	51.0	54.9